



日本の大学の留学生受入れにおける リクルーティングとアドミSSIONの 構造的問題

2015年6月2日(火)

「優秀な中国人留学生受入を実現する為の実践セミナー」

日中友好会館

一橋大学 国際教育センター

教授 太田 浩

E-mail: h.ota@r.hit-u.ac.jp

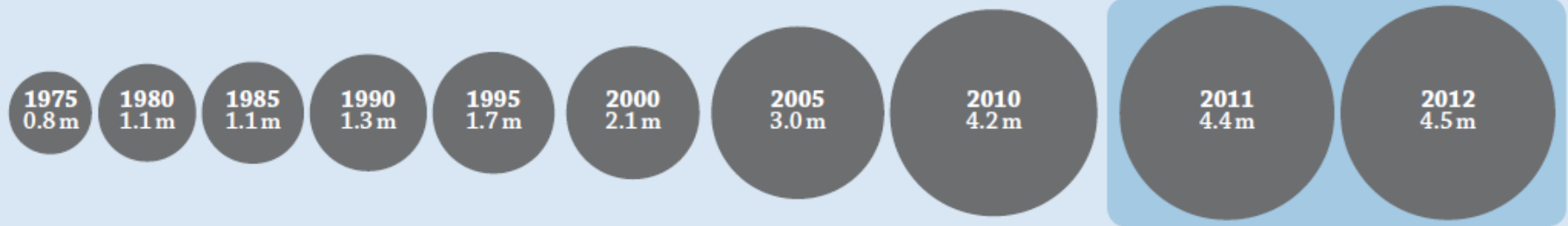


拡大する留学生教育市場

- 経済のグローバル化・知識集約型産業⇒世界的な高度人材の獲得競争⇒移民政策と連動
- 欧州、アジアでの地域内留学の増加：地域化
 - 欧州の留学生の75%は他の欧州諸国から留学
 - ASEAN:AUNによる学生流動化促進
- 新規参入国：アジア諸国の留学生政策展開（送出し国→受入れ国へ）：韓国、シンガポール、マレーシア、中国
 - 留学生数の目標：韓国（20万人）、中国（50万人）、シンガポール（15万人）
- 留学生を増やして国際化⇒国際化した大学に留学生が集まる。

Box C4.1. Long-term growth in the number of students enrolled outside their country of citizenship


Growth in internationalisation of tertiary education (1975-2012, in millions)



Source: OECD and UNESCO Institute for Statistics.

Data on foreign enrolment worldwide comes from both the OECD and the UNESCO Institute for Statistics (UIS). UIS provided the data on all countries for 1975-95 and most of the non-OECD countries for 2000, 2005, 2010, 2011 and 2012. The OECD provided the data on OECD countries and other non-OECD economies in 2000 and 2012. Both sources use similar definitions, thus making their combination possible. Missing data were imputed with the closest data reports to ensure that breaks in data coverage do not result in breaks in time series.

The data points in the shaded area correspond to a different time scale than the rest of the time series but are presented for information as they are the last two years available, and 2012 is the year of reference.

StatLink  <http://dx.doi.org/10.1787/888933118884>

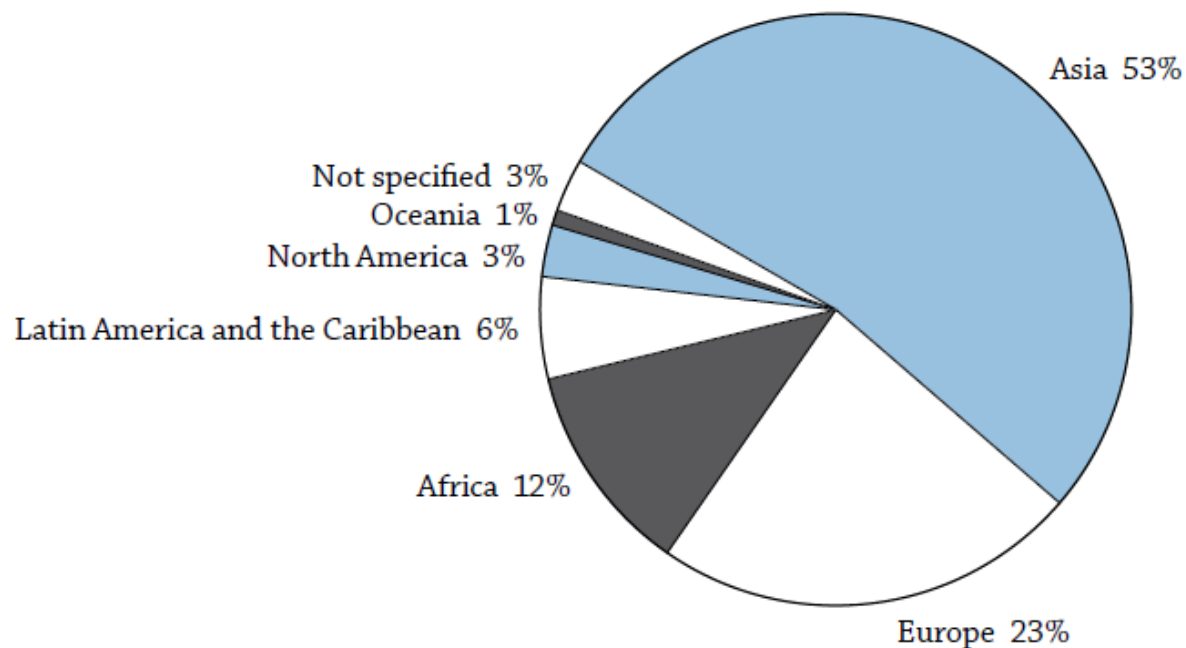
世界の留学生数は増加し続けている(留学生教育は成長産業)。

- 海外留学: エリートの特権 ⇒ 普通(すべて)の学生を対象
- 留学生: 経済的支援を受けた特別な学生(エリート) ⇒ 私費留学生かつ一般的な学生 <intercultural competenceの習得>

Source: OECD (2014) *Education at a Glance 2014*

Chart C4.5. Distribution of foreign students in tertiary education, by region of origin (2012)

Percentage of foreign tertiary students enrolled worldwide



Source: OECD. Table C4.3. See Annex 3 for notes (www.oecd.org/edu/eag.htm).


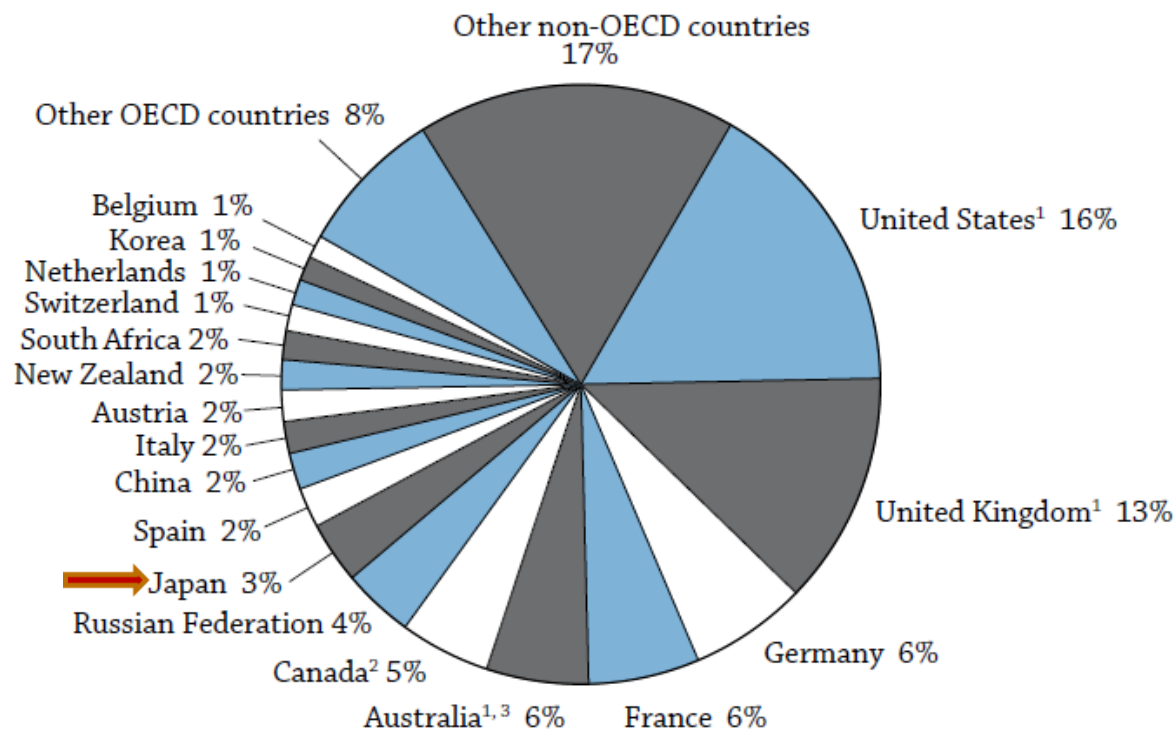
StatLink  <http://dx.doi.org/10.1787/888933118865>

Chart C4.2. Distribution of foreign students in tertiary education, by country of destination (2012)

Percentage of foreign tertiary students reported to the OECD who are enrolled in each country of destination



1. Data related to international students is defined on the basis of their country of residence.

2. Year of reference 2011.

3. Student stocks are derived from different sources and therefore results are indicative only.

Source: OECD. Table C4.4 and Table C4.7, available on line. See Annex 3 for notes (www.oecd.org/edu/eag.htm).


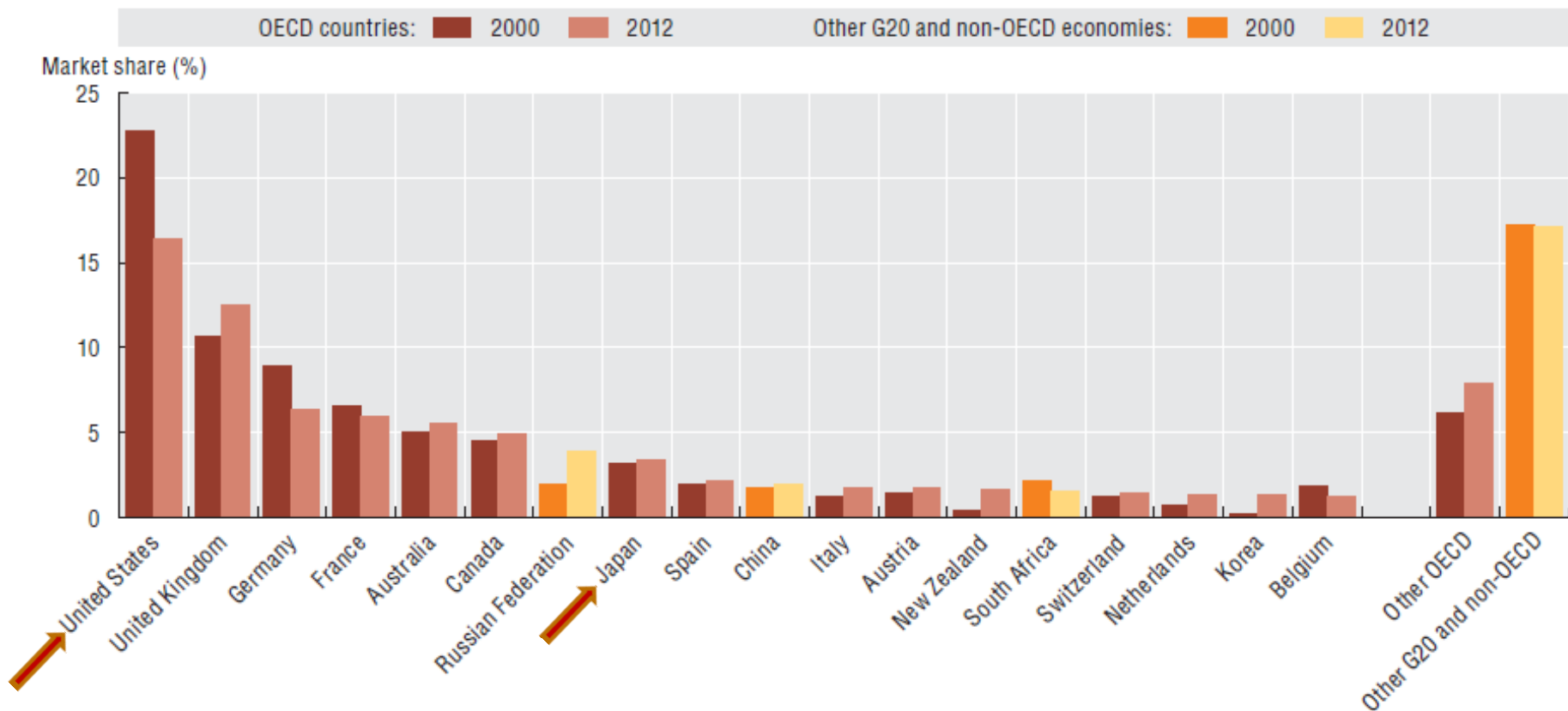
StatLink  <http://dx.doi.org/10.1787/888933118808>

Figure 2.5. Trends in international education market shares (2000, 2012)

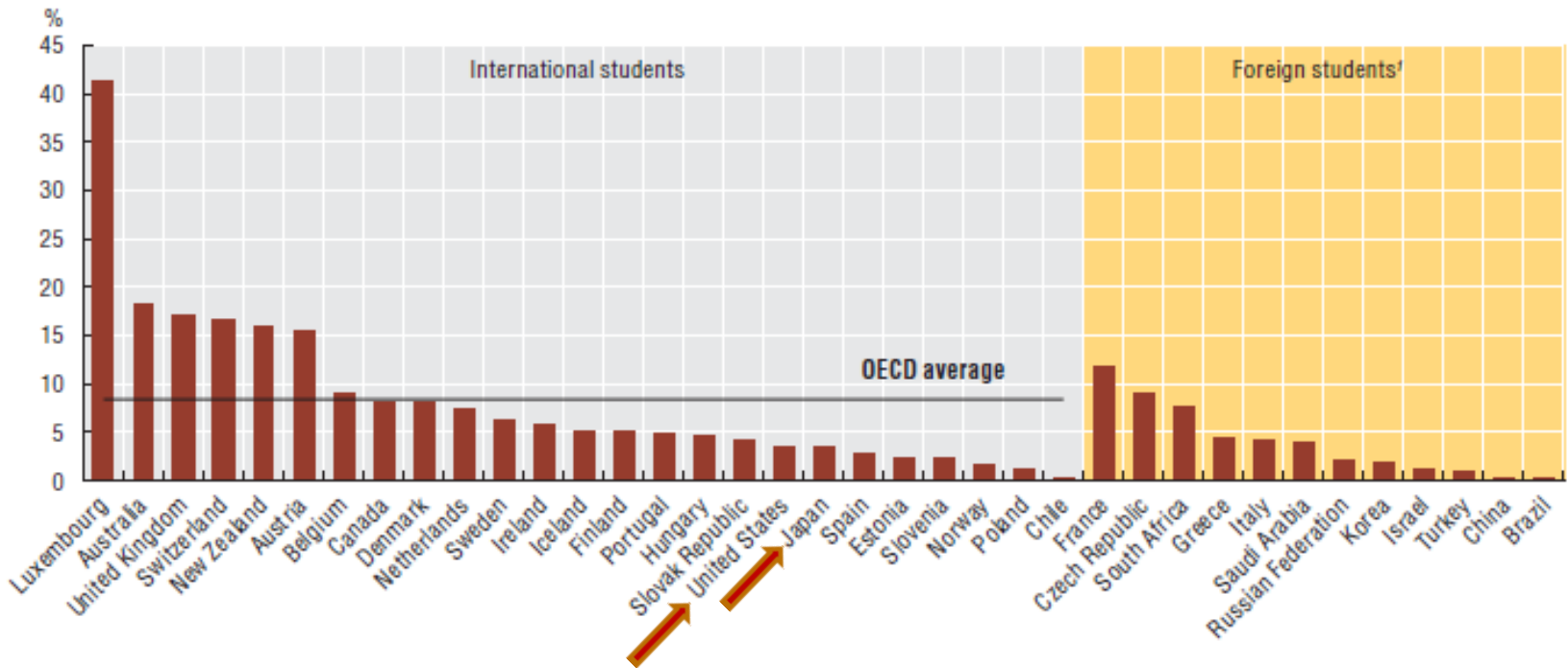
This figure shows the distribution of foreign and international students in tertiary education, by destination.



Percentage of International Students

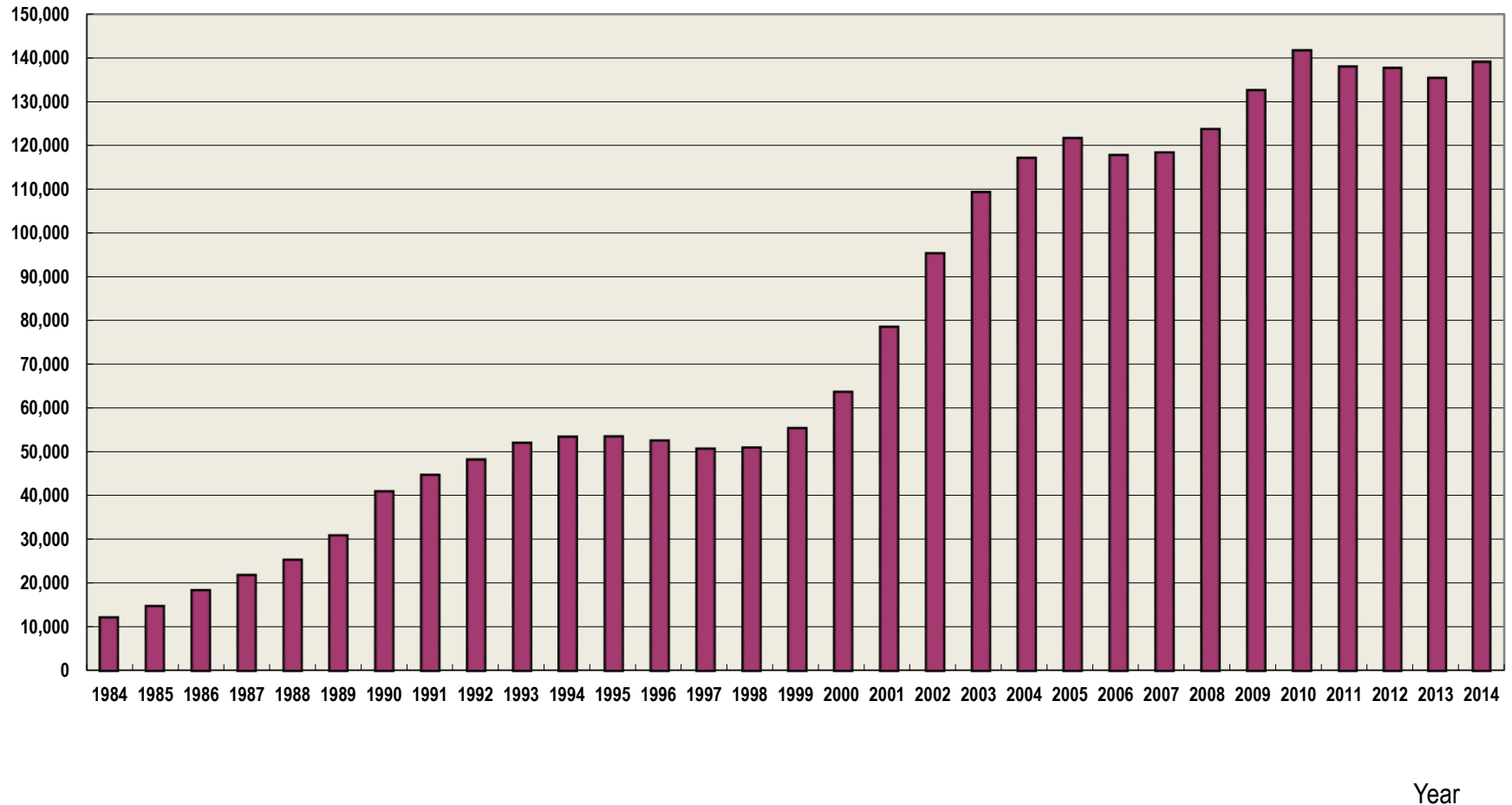
Figure 2.6. Student mobility in tertiary education, 2012

This figure shows the percentage of international students at the tertiary level in each country.



1. Foreign students are defined on the basis of their country of citizenship, these data are not comparable with data on the international students and are therefore presented separately in the chart.

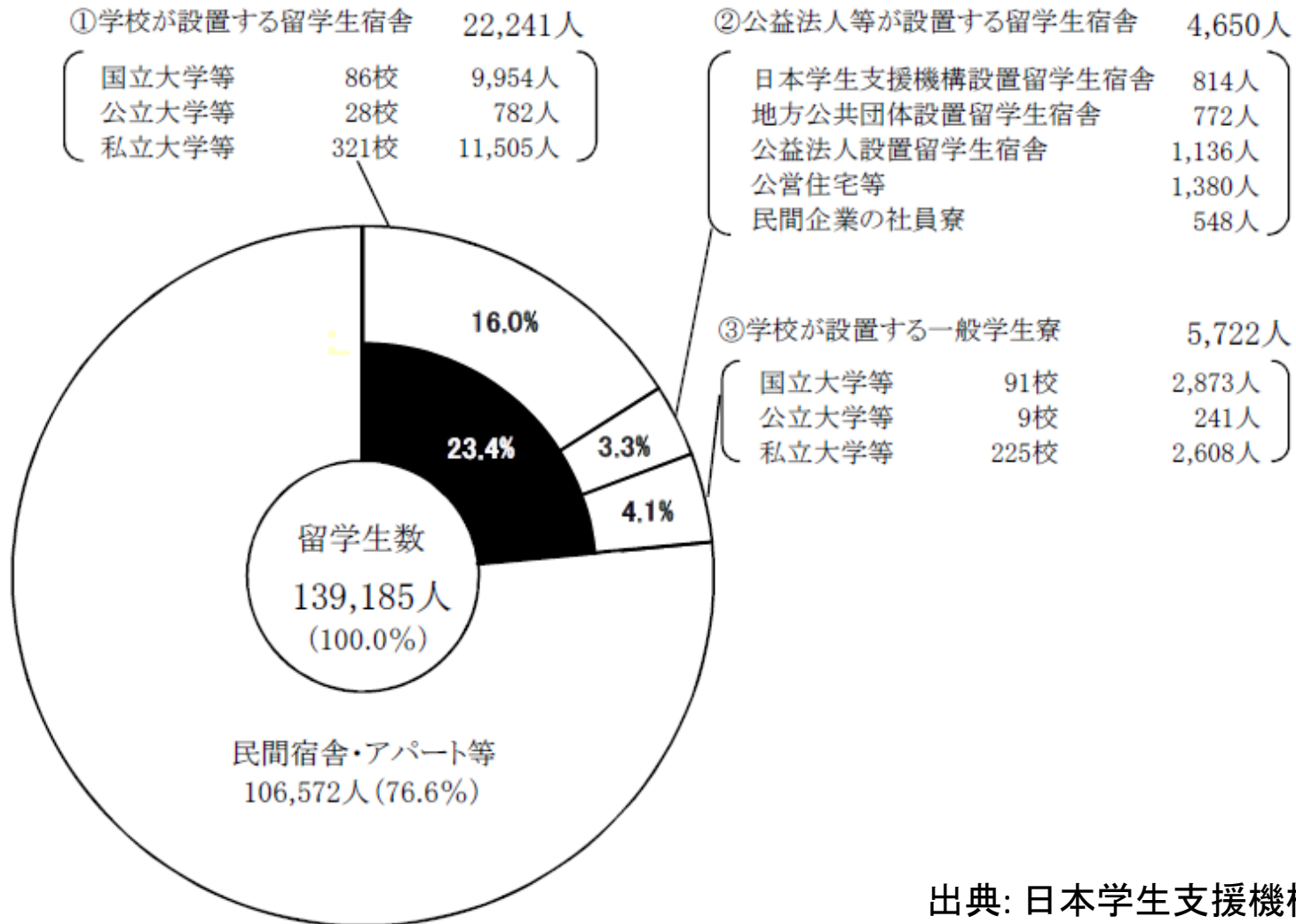
日本の外国人留学生数:10年間停滞 留学生30万人計画(2008年開始)



留学生増加に向けたボトルネック

- 私大に留学生受入れ(獲得)のインセンティブが十分でない。
- 大手私大と国立大以外は、財政的負担を考慮すると留学生の増加に消極的な面がある(但し、生き残りのための留学生受入れは増加)。
- (要因)・日本人学生と比較して外国人留学生受入れは高コスト
文系:2倍 理系:1.5倍(某大手私立大の試算)
日本語教育, 授業料減免, 留学生サポートスタッフの人件費
事務コスト
・私大では国費留学生の割り当てが少ない。
- 留学生も大学での入試を受験(書類審査のみでの合否判定が世界標準): 留学生の7割程度は、国内の日本語学校経由で入学
- 貧弱な海外での留学生リクルーティング: 「受入れ」⇒「獲得」へ
- 留学生宿舎(全体の23.4%が入居)の圧倒的不足
- 留学生別科(大学付属日本語学校)が少ない。大学と日本語学校の連携も進んでいない。

留学生宿舍の状況 (2014年5月1日現在)



出典: 日本学生支援機構 (2015)

近年の国の留学生支援逡減の状況

- 留学生授業料減免への補助制度廃止(2010年分から) 激変緩和措置あり
- 外国人留学生医療費補助制度廃止(2009年)
- 留学生奨学金(国費留学生や学習奨励費)予算の減額 (2009年度:316億円→2015年度:243億円)
- 宿舎建設奨励金の廃止(2009年)

日本人学生の海外留学支援に政策転換: 2020年までに
海外留学者数を6万人(2010年)から12万人へ倍増

- 海外留学奨学金予算(2009年度:6.3億円→2015年度:92億円)

日本の高等教育機関における留学生数

専攻分野別 (2014)

専攻分野	社会科学	人文科学	工学	芸術	保健	その他	計
留学生数	51,507	31,942	23,566	5,074	3,168	21,494	139,185
構成比	37.0	22.9	16.9	3.6	2.3	15.4	100

出身国(地域)別 (2014)

国(地域)名	中国	韓国	ベトナム	ネパール	台湾	インドネシア	その他	計
留学生数	77,792	13,940	11,174	5,291	4,971	2,705	23,312	139,185
構成比	55.9	10.0	8.0	3.8	3.6	1.9	16.7	100
増減比	-5.0	-8.9	+77.6	+66.0	-5.3	+12.2	+7.3%	+2.7

出典: 日本学生支援機構 (2015)

国内の日本語教育機関における留学生数

出身国(地域)別 (2014)

国(地域)名	中国	ベトナム	ネパール	韓国	台湾	ミャンマー	その他	計
留学生数	16,607	15,265	5,157	1,837	1,260	655	4,189	44,970
構成比	36.9	33.9	11.5	4.1	2.8	1.5	9.3	100
増減比	+3.9	+103.3	+96.9	-12.7	-7.2	+61.7		+37.8

2013年の日本語教育機関在籍留学生数: **32,626**

出典: 日本学生支援機構 (2015)

総計: 日本語教育機関在籍留学生数 (44,970) + 高等教育機関在籍留学生数 (139,185) = **184,155 (+9.5%)**

*典型的な日本での学位取得の経緯: 日本語学校 (port of entry) → 入学試験 → 高等教育機関 (例: 学士課程): 全体の約**7割**

日本の留学生（在学段階・種別と経費支弁）

在学段階・種別（2014）：高等教育機関に在籍する留学生

・大学院生: 39,979 (28.7%)

・短期・交換留学生（1～2学期間在籍の単位取得留学）: 12,774 (9.2%)

出典: 日本学生支援機構 (2015)

経費支弁別（2014）：日本で学ぶ留学生全体

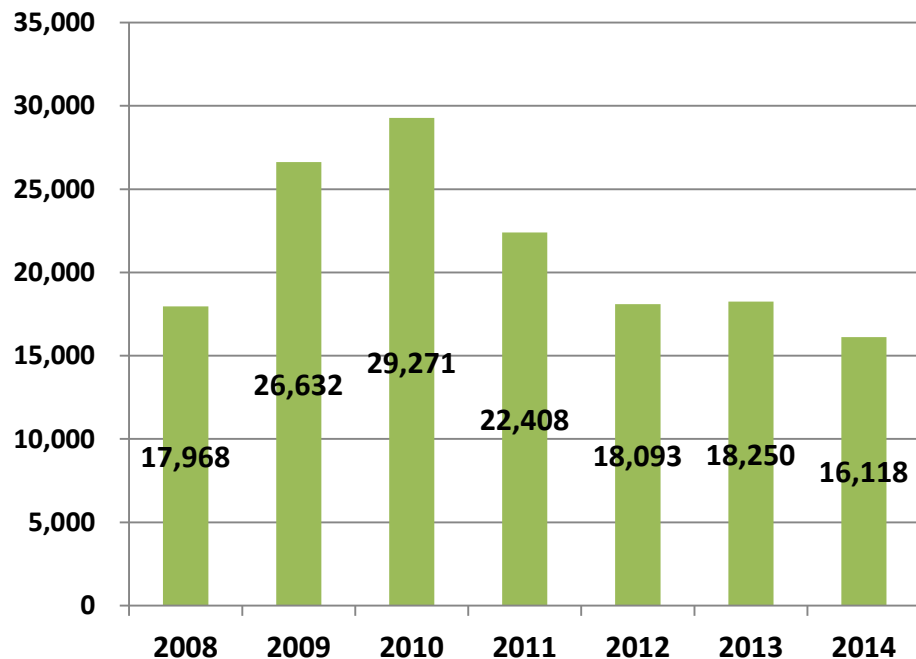
経費支弁別	私費留学生	国費留学生	外国政府派遣留学生	計
留学生数	171,808	8,351	3,996	184,155 (含む日本語学 校在籍44,970)
構成比	93.3	4.5	2.2	100

日本における外国人留学生の典型的な像:

中文学私（中国人学生、文系専攻、学士課程在籍、私費留学生）

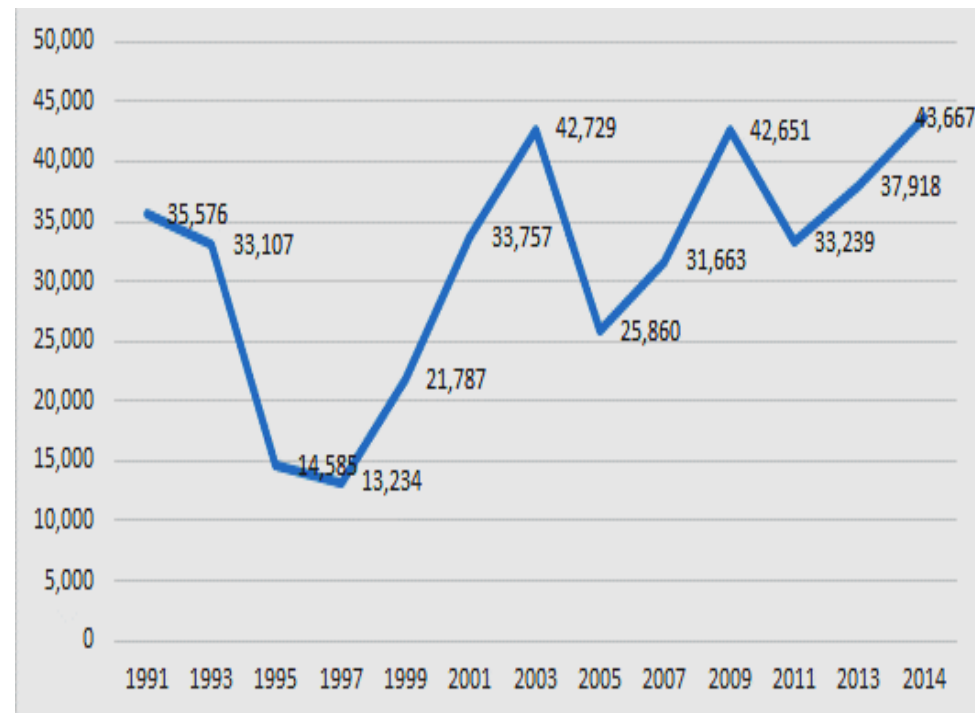
国内の日本語教育機関における 中国人留学生と留学生数全体の推移

国内の日本語教育機関に在籍する 中国人留学生数の推移



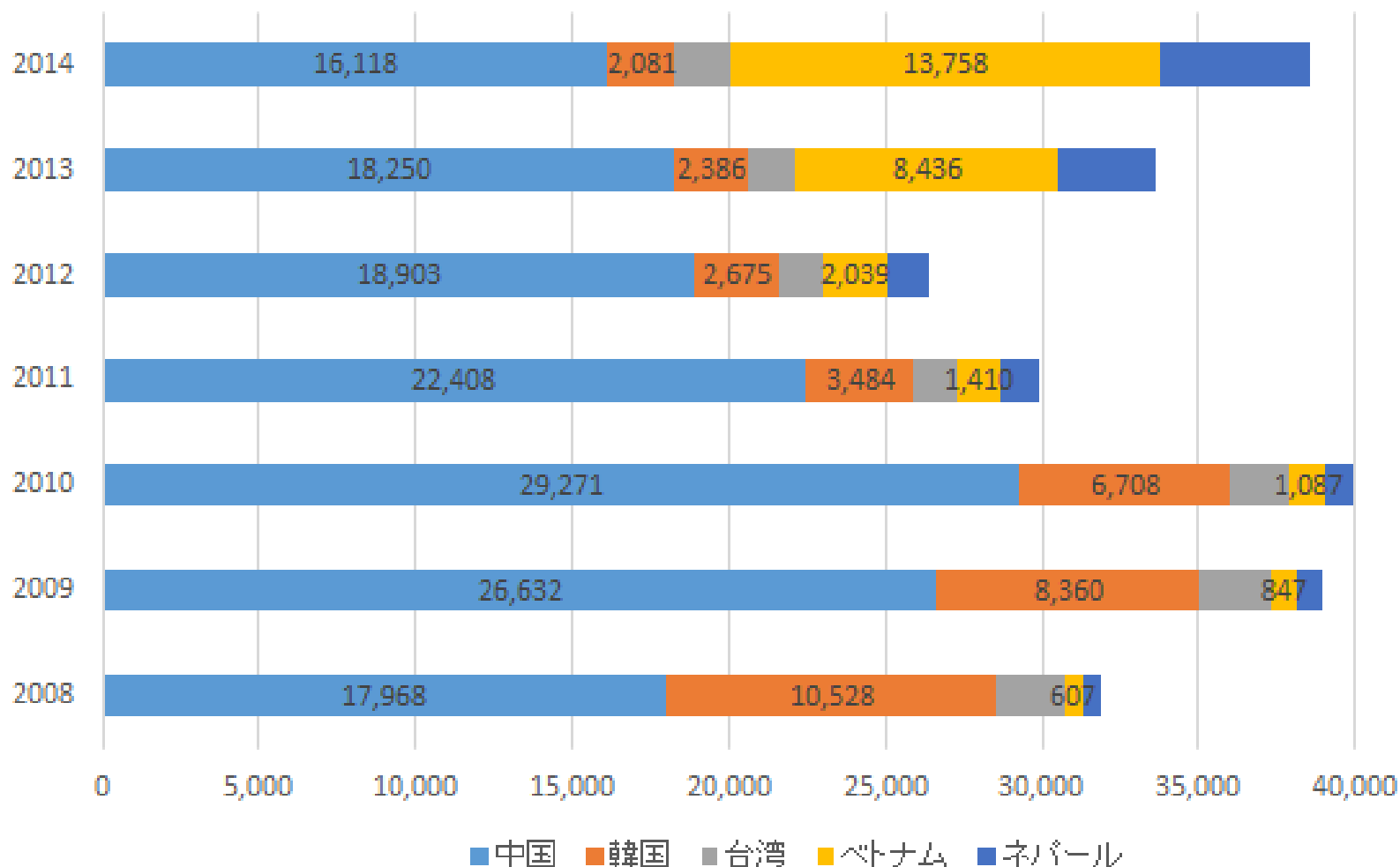
出典：日本語教育振興協会 (2015)

国内の日本語教育機関に在籍する 外国人留学生数の推移



出典：日本語教育振興協会 (2015)

国内の日本語教育機関における 国籍別留学生数の推移（2008-14）



日本留学の動向と可能性

- 中国、韓国、台湾：私費での留学が可能だが、英米志向が強い。今後は対策がないと減少（日韓、日中関係の悪化）。中国東北部や地方は増加の余地があるか。
- 近隣アジア諸国の高等教育発展と留学生**送出し国から受入れ国への転換による獲得競争激化**：韓国（20万人 by 2020）、中国（50万人 by 2020）、シンガポール（15万人 by 2015）
- インドネシア、ベトナム、ミャンマー、ネパール：留学生増加の可能性は大きい。ただし、経済的支援が必要不可欠。日本語力の問題。
- **先進国・地域（欧州とアジア）を中心に日本への交換・短期留学の需要は大きい。自校の学生を海外留学させる機会も創出**

海外での日本語学習者数(2012年)

順位	国・地域名	2009年学習者数(人)	2012年学習者数(人)	増減率(%)
1	中国	827,171	1,046,490	26.5
2	インドネシア	716,353	872,406	21.8
3	韓国	964,014	840,187	▲12.8
4	オーストラリア	275,710	296,672	7.6
5	台湾	247,641	232,967	▲5.9
6	米国	141,244	155,939	10.4
7	タイ	78,802	129,616	64.5
8	ベトナム	44,272	46,762	5.6
9	マレーシア	22,856	33,077	44.7
10	フィリピン	22,362	32,418	45.0

出典: 国際交流基金(2013)

留学生受入れ先進国の入学選考

1. 各国実施の語学試験・学力試験等のスコア
2. 卒業・成績証明書(中等教育、高等教育)
 - 出願時はスキャンした電子ファイルで可。合格者は、入学時に原本提出(偽造書類は入学取消)
3. 経済能力証明書(預金残高証明書等)
4. 志望動機(エッセイ)・研究計画の供述書
5. 推薦書

 書類審査のみ

米国の入学選考の特徴

- 「落とすため」の入学試験(合否)ではなく、「受入れるため」の入学選考(許可)⇒Output Control
 - 米国の卒業・修了率:56%(学士課程を4年で卒業:40%程度)、日本:91%(OECDの平均:69%)
 - 接続性、同等性の重視:編入学、または単位認定をした上での初年次からの入学
 - * 高等教育の高い融通性・開放性・接続性・流動性を背景
 - Admission is not science but art.
- 書類審査の基礎はFCE(大学と外部評価機関)
 - 高度に発達した学歴・資格社会を背景として、出願までの志願者の学歴と成果(成績)を適正に評価

留学生リクルーティングと入学選考 の違い: 日本と諸外国

	日 本	諸外国
Overseas Info. Center	JASSO's 4 centers and 55 "Study in Japan" resource centers	British Council: 229, CampusFrance: 103, IDP: 75, DAAD 14 , EducationUSA: 400
Online application	Rare (paper-based application)	Very common
Required test score	Scores of EJU incl. academic subject tests or JLPT and TOEFL	Language test, e.g. TOEFL or IELTS, score only
Foreign credential evaluation process	Virtually nonexistent	Processed by national center or NPO evaluators and institutions
Screening method	On-campus entrance exam and interview	Document screening only
Application fee	Expensive (JPY35,000 ÷ US\$454) and no credit cards accepted	Less expensive (avg. in US: \$50-60) and credit cards accepted
Using commissioned recruiters	Not common in general, but lower-tiered private institutions often use	Quite common except US
Transfer students	Very rare	Very common in US with <u>credit transfer</u> and articulation programs
Conditional admissions	Nonexistent	Quite common
Affiliated language school	Not so common (private unis. only)	Quite common

日本の留学生入学選考

1. 各大学実施の入学試験(面接を含む)の受験
2. 出願書類に住民票
3. 身元保証人・日本国内の連絡人

➡ 来日、滞日が前提

- 経済的負担大(受験料計52,000円(国立大の場合)+旅費)
 - * 米国の場合 約29,000円
- TOEFLスコアの提出(EJUに英語がないため)
 - * 日本語学校にとっても負担(TOEFL準備講座)
- EJU導入の意図: 渡日前入学許可の推進

日本の留学生入学選考

- 卒業証明書、成績証明書：基本的に提出されているか否かの確認だけ。対応は担当者（事務担当者や入試委員会の教員）による。受験資格があるかどうかの確認だけで中身の審査は??
- 証明書の真贋と正当性：日本語学校等、最初に日本の学校に受け入れられた時の入学選考と在留資格認定証明書審査（入管）に依拠。

渡日前入学許可への移行を阻む問題

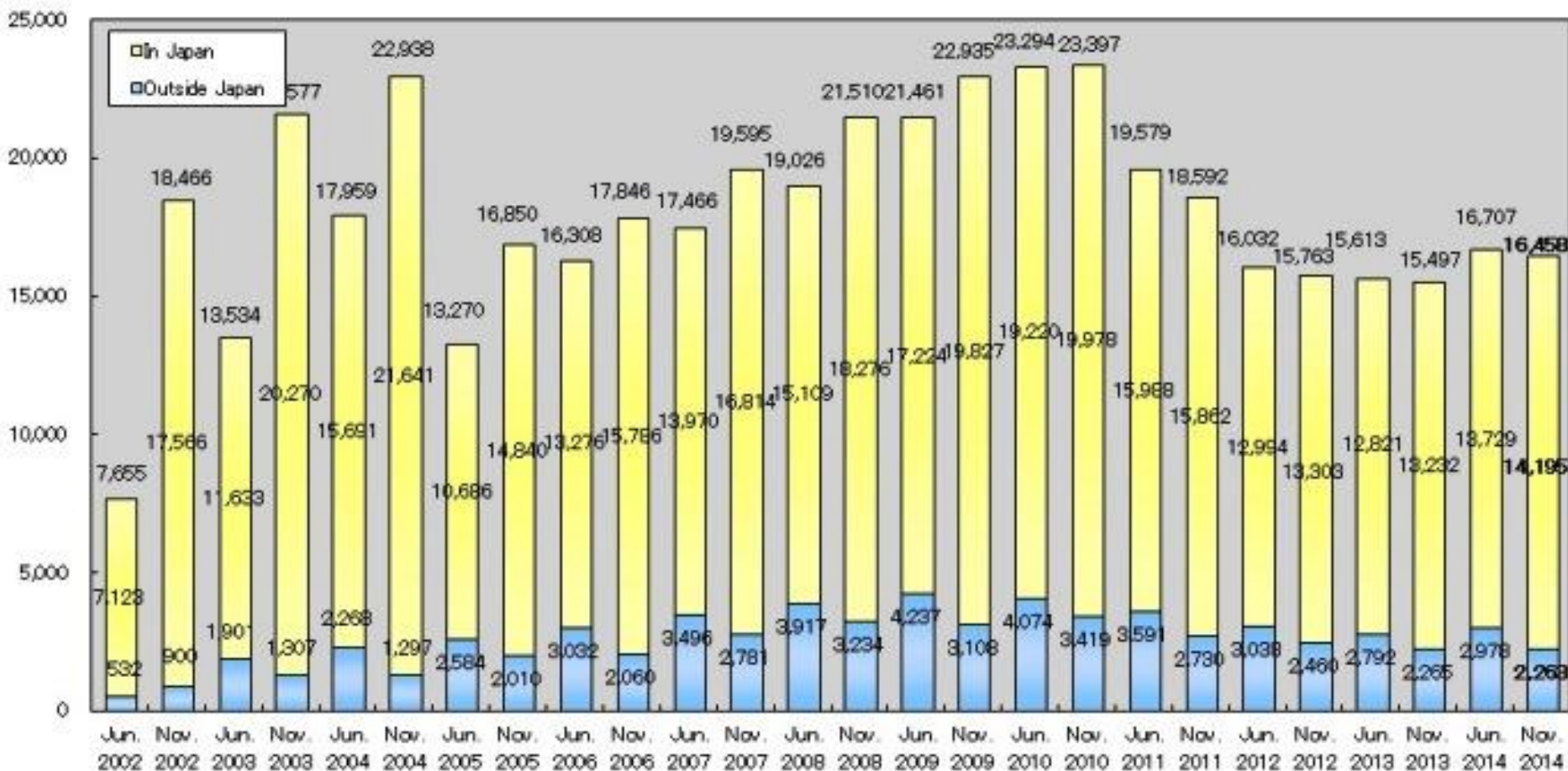
- 大学在籍の留学生の7割・・・国内の学校からの進学

JASSO調査(2015年)

- EJU利用大学:417校(全大学の56%)
- 渡日前入学許可校:79校(2014年度入試で実際に入学者があった大学:27校、**入学者数合計131名**)

- * **中国(留学生出自国の6割弱)でEJU実施されず**
→EJU利用の渡日前入学許可が留学生入学選考の主流となることは、現状では不可能
- * **EJU受験者の86.2%が日本国内での受験(受験者数停滞)**
 - × 渡日前入学許可推進のための共通的な試験
 - 留学生のためのセンター入試という位置づけ
(留学生入試の出願資格のうちの1つとしての扱い)

EJU受験者数の推移



大学の定員管理

- 大学：留学生（除く国費と交換）を含め厳格な定員管理
- 留学生の入学＝例外的に許可される枠（交付金・補助金に関連付け）
- “国の定めた大学の定員超過に対する取扱いに抵触しない範囲で留学生の入学を許可する”→「若干名」

「（留学生の）特別選抜はそれが例外であり、特別であるがゆえに、皮肉にも、日本の大学が留学生を普遍的に受入れることを遠ざける結果をもたらしている」（佐々木，2009）

- **30万人計画の目指す方向と矛盾**
- 韓国、豪州、英国：留学生を定員外とし、柔軟な受入れ

大学の定員管理

- 学生の質: Input control (高い卒業率)
- 大学間での学生の流動性が低い
 - 米国 ▶ 学生の編入、転入学、退学、除籍が一般的
 - ▶ 3年次、地域のCCから優秀な学生を編入学で受入れ
 - ▶ 成績証明書・シラバス精査 → 単位認定の上、1, 2年次の転入学も一般的(海外からも可)
 - 日本 ▶ 基本的に一律1年次からの入学(高卒も短大卒も同じ)
 - ▶ 海外で取得した単位を認定した上での転・編入学は稀



FCEが普及していないことに起因

外国人留学生に関する課題

- 日本留学はニッチ市場（ポップカルチャーの影響）
- 質と量は二律相反ではない。**量が質を生む。**
- 「受入れ」（キャンパスでの入試と面接：大学にたどり着いた外国人を特別な入口から受入れる）から「獲得」へ
 - 海外で日本の大学の情報が少ない⇒留学エージェントの活用が多い（中韓越など）。留学フェア≠リクルーティング
- 書類審査による渡日前入学許可・編入学の促進：FCE（外国学歴・資格評価）なしでは困難⇒NICの設置へ
- **日本語学校との連携**（日本語教育・準備教育との接続性向上：pathway/bridge program）
- 日本人学生との**混住宿舎**（教育機能）は必要不可欠

大学国際化を巡る課題

- 日本の大学は本質的に変わっていない: 留学生(中韓台出身)は日本の大学のやり方に合わせてくれた⇒10万人計画の達成が徹底した国際化を遅らせた??
- 日本のトップ大学: 教育の国際化においてトップ大学ではないという現実(日本語という壁に守られている)
- 日本の大学の評価: 国内(偏差値)と海外(教育力)での評価の大きな溝
- 出島型付加的アプローチからグローバル市民育成型戦略的アプローチへ: 国民教育とグローバル教育の統合、日本の高等教育の国際的通用性と共通性高める。
- 優秀な留学生が日本人学生と共に学び、生活する環境をつくる⇒**総体的なグローバル人材育成**につながる。

留学生リクルーティングにおける協働・連携の可能性



東洋大学スーパーグローバル大学創成事業セミナー

留学生リクルート・アドミッション・エンrollmentマネジメントの 将来像を考える

—米国の大学の事例から何を学ぶか？—

本年3月、全国20以上の大学・教育機関から派遣された教職員が「日本の留学生リクルーティング、アドミッション、エンrollmentマネジメント(以下EM)」をテーマとする米国研修に参加いたしました。この研修は、「一般社団法人 持続可能な国際教育推進のための研究コンソーシアム」(以下、研究コンソーシアム)が企画し、グローバル化を推進する各大学の関係者と協力して、米国先進事例研修“Study on International Student Recruitment, Admissions, and Enrollment Management in U.S.”として実施したものです。

このたび、東洋大学と一般社団法人 持続可能な国際教育推進のための研究コンソーシアムの主催により、本研修の成果を各大学の皆様と共有するための公開セミナーを開催いたします。国際化を推進するすべての大学および学部などの企画・実務にかかわるすべての教職員様に幅広くご参加いただければ幸いです。

■開催：2015年6月12日(金) 14:00 ~ 17:00

東洋大学白山キャンパス 2号館16階スカイホール (東京都文京区白山5-28-20)

※所在地詳細は裏面参照ください

参加費：無料

定員：60名 (申込先着順とさせていただきます) ※お申込み詳細は裏面参照ください

■次第

1. 主催者挨拶：竹村 牧男(東洋大学学長)
2. 趣旨と背景説明：「留学生リクルーティング、アドミッション、EMの課題」
太田 浩(一橋大学 国際教育センター教授)
3. 成果報告(研修先別)：海外研修参加者
ニューヨーク州立大学バッファロー校、フォーダム大学、
ニューヨーク大学、World Education Services
猪股 美佳(東洋大学 国際部 国際推進課)
具島 由実(お茶の水女子大学 国際課)
村上 健一郎(横浜国立大学 学務・国際部教務課)
山崎 秀人(大学評価・学位授与機構 評価事業部国際課)
- 討議とQ&A(司会：太田 浩)：白石 勝己(アジア学生文化協会理事)、
上記成果報告発表者、セミナー参加者
4. 特別講演：「資格フレームワーク・認証をめぐる高等教育の課題」
芦沢 真五(東洋大学 国際地域学部教授)
5. 今後の研究課題について：太田 浩

セミナー終了後、17時00分頃より場所を移し「交流会」を予定しております。
会費制(1,000円)にて行う予定ですので、意見交換の場として是非ご参加ください。

■申込方法

参加ご希望の方は、**6月8日(月)正午まで**に以下の申し込み先までお申込みください。

お申込み先：東洋大学国際連携本部のホームページから申し込みください。

URL: <https://www.toyo.ac.jp/ques/questionnaire.php?openid=421&check>

お問合せ連絡先：東洋大学国際連携本部事務局 TEL: 03-3945-8172 Email: ml-sgu@toyo.jp

■セミナー会場：東洋大学白山キャンパス 2号館16階スカイホール

(東京都文京区白山5-28-20)



最寄駅

都営地下鉄三田線「白山」駅

- ・A3出口から「正門・南門」徒歩5分
- ・A1出口から「西門」徒歩5分

都営地下鉄三田線「千石」駅

- ・A1出口から「正門・西門」徒歩7分

東京メトロ南北線「本駒込」駅

- ・1番出口から「正門・南門」徒歩5分

東京メトロ千代田線「千駄木」駅

- ・1番出口から「正門・南門」徒歩15分

JR山手線「巣鴨」駅

- ・南口から「正門・西門」徒歩20分

・都営バス10分

(「浅草寿町」行「東洋大学前」下車)

主催：東洋大学国際連携本部

一般社団法人 持続可能な国際教育推進のための研究コンソーシアム <http://recsie.or.jp/>

協力：株式会社JTBコーポレートセールス

Thank you for your attention!

Hiroshi Ota, Ph.D.
Professor
Center for Global Education
Hitotsubashi University

E-mail: h.ota@r.hit-u.ac.jp

